



No.81 2006・10・4

ISHIKAWA-KEN HISTORY MUSEUM

発行 石川県立歴史博物館

〒920-0963 金沢市出羽町3番1号

TEL.076(262)3236 FAX.076(262)1836

<http://www.pref.ishikawa.jp/muse/rekihaku/index.htm>



ISHIKAWA-KEN
HISTORY
MUSEUM

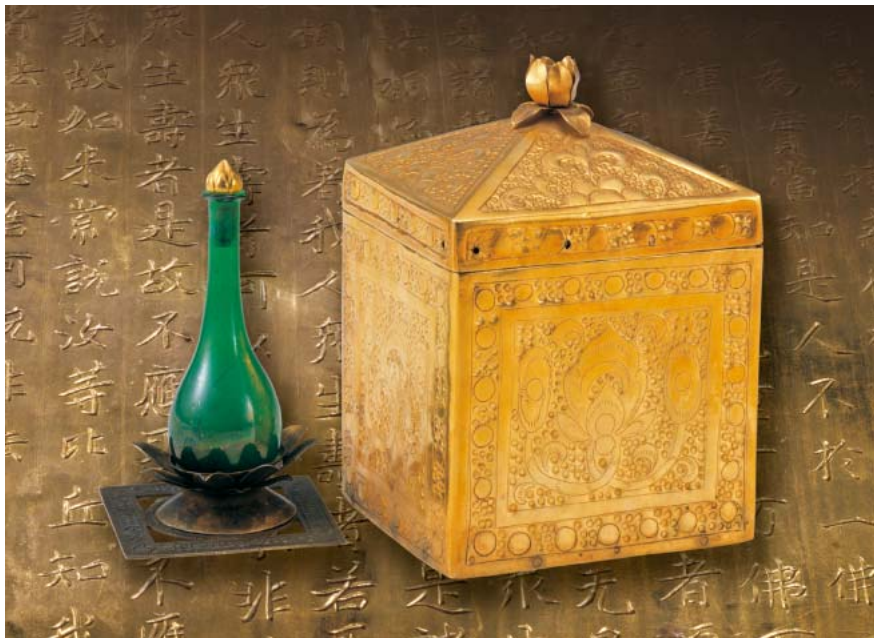
れ
き
は
く

石川県立歴史博物館開館20周年・大韓民国国立全州博物館姉妹館提携15周年記念



韓国文化への誘い^{いざな}

- 全羅北道の歴史と文化 -



国宝 益山 王宮里五層石塔出土 金製舍利盒(右)・舍利瓶(左)

会 期 平成18年10月14日(土)~ 11月26日(日)

開館時間 午前9時~午後5時(ただし入館は午後4時30分まで)

入 館 料 一般700円(560円) 大学生550円(440円) 高校生以下無料

()内は20名以上の団体料金

記念講演会(聴講は無料です。)

期日: 10月15日(日)午後2時~

場所: 当館学習ホール

演題: チャングムの飲食世界

全羅北道の郷土料理と宮廷料理

講師: 韓国全州大学校文化観光学教授 韓福眞 先生

列品解説(入館料が必要です)

期日

10月28日(土)午後2時~

担当: 普及課長 高橋 裕

11月4日(土)午後2時~

担当: 普及課長 高橋 裕



竹幕洞祭祀遺物

平成十八年度秋季特別展
「韓国文化への誘い」に寄せて

開館二十周年・韓国国立全州博物館姉妹館提携十五周年記念秋季特別展

「韓国文化への誘い」 全羅北道の歴史と文化

石川県立歴史博物館は昭和六十一年（一九八六）四月一日に発足し、今年で二十周年を迎えました。また、平成三年（一九九一）一月には、前年の十月



金銅製釈迦如来坐像

に韓国全羅北道に新たに開館した韓国国立全州博物館と国際姉妹博物館協定を締結して、以来十五年にわたって学芸員の交流、歴史・民俗資料の相互交換展示、国際シンポジウムの開催など、幅広く姉妹館交流を継続してきました。

平成二年には歴史博物館赤煉瓦棟三棟が整備され、全館完成記念特別展として「魅惑の日本海文化」を開催し、このとき石川県として初めて韓国国立中央博物館から考古資料二十三件を借用し、そのことが契機となって全州博物館との姉妹館交流が始まりました。こうした十五年にわたる親密な交流の中で培われた相互の信頼関係はなよりの財産であり、韓国の博物館関係者からも高い評価を受けています。今後ともこうした国際姉妹博物館活動を通して

日韓親善と友好をさらに促進するため、本年十月十四日（土）から十一月二十六日（日）までの四十四日にわたり、韓国国立全州博物館の全面的な協力のもと、「韓国文化への誘い 全羅北道の歴史と文化」を開催する運びとなりました。

今回の展覧会の特色の第一に、韓国の国宝に指定されている統一新羅時代の益山王宮里五層石塔から出土した舍利莊嚴具の出品があります。この舍利莊嚴具は全羅北道を代表する国宝で、全州博物館の所蔵品の中でも超一級の資料です。今回の展覧会に当たり、普段は移動すらかな許可されない韓国の国宝が、石川県で初めて公開されることとなります。黄金色に輝く純金製の舍利盒、緑に輝く舍利瓶を通して古代仏教が韓半島で隆盛を誇った姿を実感できると思います。また第二の特色として、全羅北道の伝統的な工芸品も合わせて展示されます。人間



金哲相肖像画

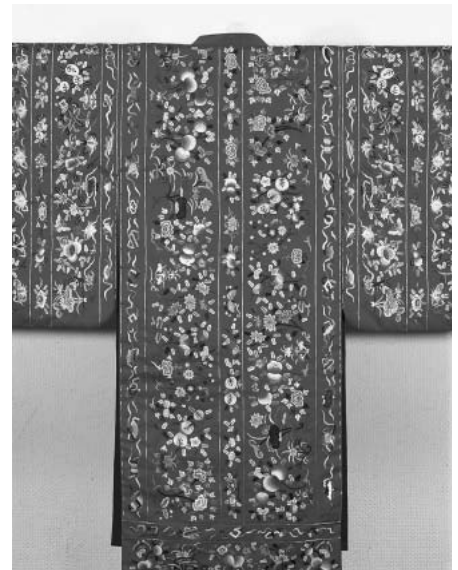


金銅製冠帽

国宝に指定された作家によるさまざまな工芸品、扇子、木製漆器、韓国の伝統音楽に使用される楽器、韓紙、陶磁器、金属工芸品など韓国文化を知る上で欠かせないさまざまな工芸品が現代に継承されている様子がうかがわれます。

今回の展覧会の展示構成は次のとおりです。

全羅北道の先史と古代文化：韓半島の旧石器時代から青銅器・鉄器時代の遺物二十五件が展示されます。



花嫁衣裳

三国時代の文化：百済の金銅製冠帽、頸飾、鉄剣、竹幕洞の祭祀遺物など五十一件の資料が展示されます。

統一国家と貴族文化：舍利莊殿具、金銅仏、青磁・白磁・粉青沙器などの陶磁器など三十三件の資料が展示されます。

全羅北道の陶磁器：近年海底から発見された飛雁島近海出土の陶磁器をはじめ全羅北道の高麗から朝鮮時代にかけての青磁・白磁・粉青沙器など三十五件の資料が展示されます。

全州と朝鮮王朝：全州は李氏朝鮮王朝の初代李成桂が本貫の地と定めたところです。太祖ご真影（写真パネル）、地図、古文書など十五件の資料が展示されます。

朝鮮遺墨の系譜：十八・十九世紀朝鮮時代、全羅北道で活動した文人墨客の作品十三件の資料を展示します。

甦る全北人の魂：人間国宝に指定された現代の工芸作家の作品五十八件が展示されます。

今回の展覧会では総計二百三十六点の韓国の文化財が展示されます。北陸の地でこれほど大規模に韓国の資料が展示されるのは初めてです。この機会に是非、日本の文化に大きな影響を与えた韓国文化の真髄を多くの方々に見ていただくとともに、一番近い隣国韓国との友好・親善に寄与できたら幸いです。
(普及課長 高橋 裕)



臨江津辺文錚盤

上半期メイトツアーを
振り返って

本館では、県民の皆様と当館のつながりを深め、当館を身近なものとして活用していただくことを目的とした「れきはくメイト」を年間を通じて募集しております。なお、会員になられると会員だけを対



春のバスツアー（立山 - 教算坊）

象とした当館主催の「歴史散歩」及び「バスツアー」（それぞれ春・秋の年2回開催）へご参加いただけます。（ただし、応募者多数の場合は抽選となります。）ちなみに、本年度春の歴史散歩は「浅野川周辺を歩く」と題し、尾張町を出発し、東山まで学芸員が歴史解説をしながら散策しました。特に「ひがし茶屋街」の「志摩」では初めて入る参加者が多く好評を博しました。また、春のバスツアーでは「立山・宇奈月を巡る旅」と題して立山山麓と黒部方面



春の歴史散歩（ひがし茶屋街）

秋にも「七尾方面」と「福井市周辺」を散策する歴史散歩とバスツアーを企画しております。特に今回のバスツアーはバス1台で2回に分けて行くプランを計画しております。また、本年度から「わくわく歴史散歩」と称し、「れきはく散歩」とひと味違う散歩も企画しました。第1回目は「兼六園周辺の近代建築を巡る」、第2回目は「城下町を歩く本多町界限」で多数の応募をいただきました。今後も9月、10月にそれぞれ「辰巳用水を歩く」、「本多町界限を歩く」という企画を考えております。募集人数が20人と少ないのでお早めにお申し込みください。

（学芸主任 永井 浩）



を旅しました。午前は立山博物館の学芸員の方から「立山信仰」について、午後は「うなづき友学館」の学芸員の方から「愛本橋」の解説をいただき、宇奈月温泉では足湯を満喫しました。



回想法と博物館

もらうことで、感情や意欲を保ち、さらには向上させようというものです。高齢者が昔のことを頻繁に思い出すのは、現実逃避という否定的な行動ではなく、自分の人生を捉え直す積極的な心の動きであるとして、ケアに取り入れたのです。

九月十六日付けの北國新聞に「思い出話で脳活性化」という見出しで、北陸先端科学技術大学院大学の記事が出ていました。これは認知症高齢者のケア法の一つである「回想法」を科学的に検証したという内容です。能美市福島町のグループホーム「とまり木」で実践研究を始めたそうで、お年寄りに「生き生きとする」「話すよじになる」「行動的になる」などの変化が見られたそうです。この研究は文部科学省の知的クラスター創成事業石川ハイテク・センシング・クラスター「アウェアホーム実現のためのアウェア技術の開発研究」プロジェクトの一環です。

ところで、この回想法とはどういうものなのか簡単に紹介します。一九六〇年代にアメリカの精神科医が提唱した認知症のケア方法のひとつです。同世代の仲間などと懐かしい思い出を語り合い、聞いて

員は看護師のように医療処置や身体的ケアはできないが、博物館資料や歴史・民俗などの知識を認知症高齢者との関わりで生かすことができる。そこで、学芸員と看護師が連携をとったり、歴史博物館を活用したりすることで、より質の高いケアができるのではないかと話しました。

博物館は社会教育施設として、生涯教育の場として、また、観光スポットとしての位置づけが一般的に言われています。しかし、これからは医療福祉現場との連携による新たな使命があるのではないかと考えています。たとえば、高齢者施設等から来館時の企画を看護師とともに立案、個々の高齢者の特性に応じたプロンプトの提供、看護師の研修の場などです。

愛知県西春日井郡師勝町では、この回想法を地域ケアの中に取り入れ「思い出ふれあい事業」として実施しています。師勝町の歴史民俗資料館はその事業の一端を担う、全国でも福祉と連携した先端的な博物館施設です。

県立歴史博物館でも今年の四月二十八日に、県立看護大学の四年生前期選択科目「認知症高齢者ケア論」の演習が行われました。講義の中で私は「学芸

私たちの仕事の中に聴き取り調査があります。このことは回想法に通じることが大きいのです。今後の博物館活動の中で、医療福祉との連携が強く叫ばれる時期が、すぐそこに来ていると思っています。

(学芸専門員 長谷川孝徳)

れきはく催し物案内（予告）

れきはくゼミナール 予定

毎月第三土曜日に開催

学芸員が、日ごろ研究しているさまざまなテーマをお話します。

時間 いずれも午後二時から三時三十分まで

会場 当館学習ホール

受講料 無料 どなたでも聴講できます。

十月二十一日（土）講師 高橋 裕

テーマ「韓国博物館事情」

十一月十八日（土）講師 小西洋子

テーマ「中世女性の老後」

十二月十六日（土）講師 三浦俊明

テーマ「継体王朝と越の国」

平成十九年

一月二十日（土）講師 永井 浩

テーマ「能登客館と気多大社」

常設スポット解説

毎月第一月曜日に開催

学芸員による常設展示のワンプォイント解説です。

時間 午後二時から二時三十分まで

会場 当館常設展示室

スポット解説のみの方は無料です。ただし、他の展示室をご覧の方は入館料が必要です。

休館日のお知らせ

十月十二日（木）・十三日（金）ノ十一月二十七日（月）・二十八日（火）ノ十二月二十七日（水）ノ三十一日（日）、平成十九年一月一日（月）ノ三日（水）は展示替と年末年始のため休館日となります。

十一月六日（月）講師 濱岡伸也

テーマ「村の生活、町の生活」

十二月四日（月）講師 本康宏史

テーマ「石川県の誕生」

平成十九年

一月八日（月）講師 大井理恵

テーマ「白山麓のくらし」

バスツアー「今庄宿・武生・福井」

十一月一日（水）、八日（水）

詳細はメイト情報にてご案内いたします。

歴史散歩・バスツアーなどの行事は、れきはくメイト会員のみの参加となります。入会されていない方は、この機会にぜひともご入会ください。なお、会員になりますと、様々な特典があります。会費は千円です。当館総合カウンターで受付を行っています。

県民大学校歴史講座開校

全十二回 毎回水曜日開催

「石川県の歴史と文化について、基礎的な理解を深めたい」との県民の声にこたえて、原始から近現代までの通史と個別テーマを全十二回のシリーズで行う講座です。左記の要領でお申し込みください。

対象 どなたでも受講できます。

定員 五十名（先着順）

開催期間 平成十八年十一月十五日から平成十九年二月十四日までの毎月水曜日

時間 午後一時三十分～三時三十分

会場 当館学習ホール

受講料 三千円（テキスト代含む）

申込方法 入学申込書に必要事項を記入の上、受講料を添えて、当館総合カウンターへお申し込みください。なお、入学申込書は当館にも置いてあります。

受付開始 十月一日（日）

申込時に詳しい資料をお渡しします。

次回 企画展のお知らせ

「新春を祝う」

平成十九年一月四日（木）～二月四日（日）

毎年恒例となりました新年を寿ぐ資料を紹介します。

編集後記

今年の春季特別展、夏季特別展にはたくさんの入館者がありました。また、歴史散歩やバス旅行も大盛況です。バス旅行も今までと方法を変えながら、さまざまな試みを考えています。文化の秋です。秋季特別展をはじめ、事業も盛りだくさんです。ぜひとも博物館へこ来館ください。